人工物の発達とカナダ・イヌイット社会の変化に関する覚え書き

総合研究大学院大学
比較文化学専攻
岸上伸啓

1. 問題意識

カナダの極北地域に住むイヌイットは、1960年代に季節的な移動生活から特定の村落に住居を構える定住生活に移行した。この結果、彼らは、さらに国民国家や市場経済の中に組み込まれることになった。そして過去50年の彼らの変化は、物質文化においてもっとも顕著に認められる。

2006年現在、カナダには約4万6千人のイヌイットが住んでいる。そのうちの約8割が、北西準州、ヌナヴット準州、ケベック州極北部ヌナヴィク地域、ラブラドル地域など極北地域に住み、残りの2割がオタワやモントリオール、エドモントンのような南部の都市地域に住んでいる。

私は、イヌイットの社会制度や文化的な側面の変化について研究してきたが（岸上 1998, 2005, 2007）、近年、注目しているのは、導入された情報伝達手段がイヌイットによってどのように利用され、どのような社会変化を生み出しているか、という問題である。

1960年代以降、イヌイット社会に導入された情報伝達手段は、文字媒体、無線機、ラジオ、テレビ、電話、ファックス、PC によるインターネット利用、携帯電話である。すでに、ラジオやテレビ、電話、文字媒体については、報告したが(岸上 2004; Kishigami 印刷中)、インターネットの利用と携帯電話の利用については、十分な調査を行っていない。

2. 極北地域のイヌイット社会におけるPC、インターネット、電話

カナダはIT(情報技術)の先進国のひとつであるが、インターネットの利用は個人が所有し、使用できる小型コンピューター(以下、PC)の普及などと関連している。イヌイットが住む極北地域では、1990 年代から小中学校教育でPCが使用され始めた。また、村役場や生協、看護所などの事務処理にPCが導入された。イヌイットの一般世帯の間にPCが普及しているとはいいがたいが、その普及率は着実に伸びている。

次に示す2つの表1と2は、カナダの極北に住むイヌイット(成人)の PC や高速インターネットの利用の状況と2006年におけるブロードバンドの普及状況である(Inuit Tapiriit Kanatami 2007)。

表1をみて分かるように過去12ヶ月にPCを使用したことのあるイヌイットは人口の約50%であることが分かる。また、過去12ヶ月にインターネットを使用したことのあるイヌイットは、30%～40%であり、家庭電話の普及率は約90%であることが分かる。私のおもな調査地域であるヌナヴィクでのインターネットの使用率は、28%ともっとも低いが、私の体験では、クージュアック村のような大きな村とアクリヴィク村のような小さな村との間や各村の賃金労働者と非賃金労働者との間でも使用率が異なると考えられる。

表１　極北地域のイヌイットのPCの普及率、インターネットの使用率、固定電話の普及率
(出典：　Inuit Tapiriit Kanatami 2007: 10)

通信技術	ラブラドルのイヌイット(一部の村)	ヌナヴィクのイヌイット	ヌナヴットのイヌイット	イヌヴィアルイット(西部極北地域)	１５歳以上のカナダ人
過去12ヶ月でのPCの使用	６５％	４４％	５１％	５６％	N/A
過去12ヶ月でのインターネットの使用	５４％	２８％	３４％	４４％	５３％
自宅に電話がない	９％	１３％	１３％	１１％	３％

表２　極北地域の町村へのブロードバンドの接続
(出典：Inuit Tapirit Kanatami 2007: 10)

地域	村の数	ADSL	High Speed Wireless	Ka Band Satellite	No High Speed
ラブラドル	5	5	0	0	0
ヌナヴィク	１４	0	１４	0	0
ヌナヴット	２８	1	２５	0	3
イヌヴィアルイット	6	1	6	6	0
合計	５３	7	４５	6	3

表２によると、極北地域にあるイヌイットの53町村のうち３つをのぞく、すべてがブロードバンドに接続しており、インターネットなどを利用するためのインフラ環境は整っているといえる。なお高速ブロードバンドが接続できないヌナヴット準州にある３つの村(Bathurst Inlet、Umingmatok、Navisivik)は、きわめて僻地にあるか閉鎖が予定されている場所である。

なお、携帯電話については、利用できる範囲がいまだ限定されているため、カナダの極北地域のイヌイットの間ではいまだに普及していないが、アラスカでは狩猟に出たハンターが携帯電話で狩猟状況や猟場の情報を交換している事例も出はじめている。カナダ極北のイヌイット社会においても近い将来、その普及率が増大し、社会的なインパクトを生み出すと予想される。

3. 都市在住イヌイットのPC、インターネット、電話

イヌイットの全人口の２割は、カナダ南部の都市地域に居住している。この人口は、経済的な階層に明確に分かれ、少数の定職を持つ中流階層と大多数の無職(ホームレスも含む)の下流階層に分かれている。前者をグループA、後者をグループBと仮に呼ぶとすると、PC、インターネット、電話の所有と使用において大きな違いが見られる(Kishigami in print)。

グループAに属するイヌイットは、職場でも自宅でもPC、インターネット、固定電話、携帯電話を使用している。インターネットや電話は、都市に住む彼らと極北地域の故地に住む家族や親族、友人との通信に頻繁

に利用され、両者の間の社会関係の維持やアイデンティティーの維持・確認に貢献している。また、グループAのイヌイットは、電話やPCで故郷に連絡をとり、冷凍のカリブー肉やホッキョクイワナなどカントリー・フードを送ってもらっている。また、病院や会議に出席するために都市にやってくる家族や親族、友人を自宅に宿泊させたり、めんどうをみたりしている。彼らにとっては、PC、インターネット、電話は、生活に欠くことのできない道具となっており、生活のあらゆる面で活用されている。

グループBのイヌイットは、グループAと異なり、自宅に固定電話を持っているイヌイットは多いが、PCや携帯電話を恒常的に所有している人は少ない。通信手段の所有と利用には、現金収入の程度など経済的な要因が深く関係している。グループBのイヌイットは、先住民友好センターの電話やPCに接続されているインターネットを利用することができるので、極北地域に住む家族、親族、友人と連絡をとることができるが、その頻度はグループAのイヌイットと比較すればきわめて少ない。グループBの特に無職者やホームレスのイヌイットは、通信手段へのアクセスが困難な状況にある。このため、故地との社会関係や都市の中でのほかのイヌイットとの社会関係の維持も難しい状況にあり、アイデンティティーの維持が困難になりつつある。

このように都市においては異なる経済階層に属するイヌイットの間に、通信手段の所有と利用をめぐって大きな差異が存在しており、社会関係やアイデンティティーの維持において異なる作用を生み出していることが分かる。

4. 今後の課題

今後、カナダの極北地域においても都市地域においてもイヌイットのPCやインターネット、携帯電話の利用率は向上していくと思われる。情報手段の発達と普及、利用の増大が、カナダ・イヌイット社会にどのような変化を引き起こすかを解明することは、非常に興味深いテーマである。私は、イヌイットのインターネットや携帯電話などの使い方を詳細に調査し、それらの通信手段の利用による生活や社会関係の変化について、個人差、町村差、地域差、極北地域と都市部における差異、階層差に着目した民族誌的な研究を実施してみたいと考えている。

5. 引用・参照文献

Inuit Tapiriit Kanatami

2007　Inuit Statistical Profile. Ottawa: Inuit Tapiriit Kanatami.

岸上伸啓

1998　『極北の民　カナダ・イヌイット』東京：弘文堂

2004　「カナダ・イヌイット社会におけるメディアの利用について－ヌナヴィク地域の事例を中心に」『人文論究』(北海道教育大学函館人文学会) 73:17-31。

2005　『イヌイット　「極北の狩猟民」のいま』(中公新書)東京：中央公論新社。

2007　『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』京都：世界思想社。

Kishigami, Nobuhiro

印刷中"Information and Material-Resource Flow among the Urban Inuit: Research from Montreal, Canada" 『人文論究』(北海道教育大学函館人文学会)。